

平成26年度第4回千葉競輪場開催業務等包括委託審査委員会議事録要旨

1 日 時： 平成27年3月27日（水）午前10時30分～午前11時30分

2 場 所： 千葉競輪場4階多目的室

3 出席者：（委員）

白土委員長、山本委員、藤本委員、市原委員、柳下委員

（事務局）

経済企画課村杉課長、大堀所長、齋藤主査

葛巻主任主事

（日本写真判定株式会社 以下 J P F）

代表取締役専務 町田、小宮事業長、荻原事業長代理、高橋事業長代理

邊田事業長代理、石塚事業長代理

4 議 題

（1）包括業務委託の進捗状況モニタリングについて（1月～3月）

5 会議経過

（白土委員長）

議題1 包括業務委託の進捗状況モニタリングについて、J P Fからの報告を求める。

（包括業務委託の進捗状況モニタリングについて）

（J P Fが配布資料に沿って説明）

- ・ 1月から3月期について、スタッフの雇用維持拡大を進めており、飲食物の調理販売を継続して実施する。店舗名は「C K Bカフェ」。千葉競輪場の名物をつくろうと、スタッフがメニューの考案、調理を行っている。G Iなどの大きなレースや土日の実施になる。
- ・ 場内の湯茶器、集計センターの端末操作も次年度から積極的に参加して、清掃活動も競輪場周辺から活動の輪を広げ、さらに愛される競輪場づくりを行う。
- ・ 2月の東出剛メモリアルカップでは地元千葉の選手のトークショーや音楽ステージ、田中進さんと吉井秀仁さんの予想会を行った。
- ・ 東出さんの銅像や自転車を飾ったコーナーで記念写真を撮るお客様もいた。東出さんの思い出にふけているようだった。

(統制業務について)

- ・統制室について、TV業務・投票員代行業務に加え、トータリゼータシステム（賭け金の集計や払戻金の計算、表示をする機械設備）の運用操作業務を行うこととした。車券発払機の保守業者であるトータリゼータエンジニアリング㈱の協力を得て、現在はパソコン操作の習得に努めている。4月1日に運用リハーサルを実施し、さらに万全を期するためJKAの講師を招いて研修を実施した。

(東出剛メモリアルカップについて)

- ・東出剛メモリアルカップでは、売上目標を達成した。10億円弱。
- ・S級S班の深谷選手をはじめとする好メンバーのあっせん、場外協力場が多かったこと、後半の2日間はスピードチャンネルの690ch（CS放送で競輪のメインチャンネル、車券売上が最も期待できる）で放映できたこと、などの好条件が重なり、車券売上が良かった。
- ・購入単価が固定しつつある現状で、電話投票売上がどれだけ延ばせるかが一つのポイント。

(TV業務について)

- ・TV業務も機材を追加することや兼務を行うことで業務効率化が可能。
- ・番組もインタビューを増やし、番組から選手への応援メールを募集し、それを発表することで演出面の強化を図った。

(前回の委員会の提案事項の報告について)

- ・施設修繕については、メインスタンドのクーリエネレーションシステムの修繕が終了した。夏場の冷風も確保できる。
- ・冷温水発生器、統制室の音声系の放送設備については不良か所を洗い出し中。どちらも耐用年数を過ぎているので、随時メンテナンスを行っている。
- ・雨漏り等の不良か所については随時修繕を実施。
- ・サイクル会館の選手浴槽給湯器の不具合を修繕した。
- ・バンク走路については、ウォークトップ修繕を今年の7月から9月に実施予定。
- ・走路に4か所、計測用のチップ受信線を埋め込むことを検討中。ゴールラインと250mバックラインに埋め込むことで、自転車競技のトラック競技から競輪まで、より正確なタイムを計測できるようになる。東京オリンピックの練習場やアスリートの練習場として活用できるように、また千葉競輪場で全プロ競技大会の開催も含めて検討する。

(ミッドナイト競輪について)

- ・前回、ミッドナイト競輪を提案したが、まずは、ナイター競輪の開催を検討したい。先月から始まった前橋のナイター競輪でも、FⅡ開催で7億6千万円という素晴らしい売り上げだった。

(売上、事業計画の進捗報告について)

- ・日本競輪選手会千葉支部の協力により、千葉サイクルクラブを運営してきた。自転車を持っていない方は参加できなかった。J P Fで貸し出し用の自転車、サイズも5種類用意して、誰でも参加可能な自転車クラブになった。
- ・日曜日の午後2時から開催していたが、夕方からの参加希望者も多々あり、平日の夜の時間帯の開催も検討中。
- ・弱虫ペダルとコラボレーションを行った自転車レースも5月末に開催予定。
- ・夏に上映予定の弱虫ペダルの映画に使用する自転車の疾走音を選手会協力のもと収録。映画のタイトルロールに千葉競輪のロゴ、またメイキングビデオにも選手を露出する。

(スタッフの雇用について)

- ・障がいを持った方の事務採用の雇用を1月からスタートした。
- ・清掃業務担当として2名を4月から雇用する。
- ・美化チームと清掃委託業者が力を合わせて、場内外の美化計画を進め、お客様の満足度を上げていきたい。
- ・TV業務、統制業務にも障がいを持った方を1名雇用する。作業量としては個人の障がいの程度に合わせる。千葉市在住の障がいを持った方が自立して生活を送れるよう、努力する。

(スペシャルオリンピックの開催誘致について)

- ・スペシャルオリンピックの開催を誘致したい。
- ・スペシャルオリンピックとは、知的障がいのある人たちに様々なスポーツ大会を開いている国際組織。
- ・スペシャルオリンピックの自転車競技を千葉競輪場で開催することで、市民の方々に広く認知してもらいたい。
- ・広い500mバンクは傾斜角度もゆるく、練習場としては安全で最適。
- ・都心に近い東京オリンピック、パラリンピックの練習場として広く認知されるよう、スペシャルオリンピックを開催したい。

(協賛レースについて)

- ・協賛レースを4月から実施する。

- ・現在、5月12日からの開催と、6月10日からの開催で企業協賛レースを行うことが決定している。
- ・WEB会社の協賛を得ることで、その会社の持つ広告媒体を利用することができ、相乗効果を狙った。
- ・今後は個人協賛をつのり、選手やファンサービスの場として活用したい。

（集客向上について）

- ・地域の方を競輪場に招待したところ、競輪場の中に入るのは初めてという声があった。今まで来場しなかった地域の方を、お客様として取り込みたい。
- ・メインスタンド3階は、千葉記念やグランプリシーズン以外は空いている。地元の町内会の方々に3階を催し物などで利用してもらい、競輪の1着当てクイズなどを行って、競輪の売上、集客に繋げたい。

（ナイター開催について）

- ・初期投資として照明や照明のバックアップ電源、選手だけに打鐘が届くような音響設備等の検討が必要。
- ・客層の若年化、協力場外の増加も期待できるナイター開催を実現したい。

（HD化について）

- ・平成27年度の4月から全国20場の競輪場で（データ通信の高画質化に対応できる映像システムである）HD化が終了。高画質配信が実施される。
- ・千葉競輪場はHD化していないが、TV室にはHD対応機器もある。千葉市の協力により、アナログ機器を徐々にデジタル化して、HD化に対応する。

（千葉競輪場のサイクルパーク化について）

- ・JPFは広島に包括受託が決まり、サイクルパークを設置する。広島競輪場のデータを取り、千葉競輪場でも投票所をコンパクトにして、若者が集まるBMXパークやカフェを運営して、自転車愛好家や女性を集める。広島でのデータを取り、千葉競輪場に合ったサイクルパーク化を進めたい。

（収支の改善について）

- ・先日の市議会答弁の中で千葉市経済農政局長が、「収支が黒字となる見通しが立つか否かで事業存廃の判断を行うこととなる。」と話した。
- ・千葉競輪場は、JPFが包括受託してから、2年間、黒字を実現した。
- ・経営改善策を含め、常に売上向上策を模索している。
- ・民間活力を生かすことで事業収支の黒字を確保できると確信している。

- ・これからも、事業継続に向けて売上向上を図る取り組みを行う。

(白土委員長)

事務局にモニタリング結果の説明を求める。

(事務局 葛巻主任主事)

- ・受託者から提出のあった平成26年度開催事業実施計画にもとづき計画通り事業を実施していることを確認した。
- ・1月～3月の開催業務実施計画書及び開催業務実施報告書の提出を受けて、市営競輪の開催業務について検査を行い、実施計画通り開催業務を良好に遂行していることを評価した。

(白土委員長)

前回、質問に回答できなかった点を報告する。全体的な競輪界の現況については、平成3年度が売り上げのピークで、1兆9,553億円。23年間ずっと下がり続けて、去年が6,063億円。平成26年度は3月26日までの売り上げが6,097億円で、23年ぶりにようやく対前年越えという結果になった。

対前年比で101.5%。1日当たりの平均では110%。開催日数を減らして売り上げを増やした。インターネットを使って売る方式が定着してきた。

施行者間での連携も強化して、より効率的に売れるようになった。電話投票、インターネット投票が110%と伸びた。

(柳下委員)

実際はF I開催の車券売上が伸びている。インターネット投票で、今回、3つのネット銀行が加わった。今まで楽天銀行、ジャパンネット銀行の2つだったが、三井住友銀行、三菱東京UFJ銀行、住信SBIネット銀行の3行が加わった。

(白土委員長)

インターネット、電話投票会員の平均年齢は来場者よりは低い。50歳くらい。

(藤本委員)

インターネットで見て電話で購入するという事か。

(白土委員長)

インターネットで投票できるという事。電話投票は電話のプッシュホン方式で始まったので、呼び方が電話投票。今はほとんどがインターネットの車券売上。インターネットで全て完結する。競走も見られる。オッズも見られる。投票もできる。

(山本委員)

最初に廃止のニュース記事が出たのは12月か。

(事務局 斎藤主査)

- ・1月である。

(山本委員)

お客様から問い合わせなど、影響はあったのか。

(JPF)

- ・報道から1週間、1日に約20件のお客様からの問い合わせがあった。場内のお客様からも「もうなくなるのか?」といった問い合わせが何件かあった。店舗のスタッフさんからも説明を求められた。
- ・報道の2日後に、JPFがスタッフに自分たちの分かっている情報を説明した。
- ・報道後、売上については、今までとほぼ変わらない。
- ・スタッフのモチベーションが下がった。退職するスタッフも数名出た。

(市原委員)

- ・継続的な黒字化が、継続の要素であると思う。大規模修繕の費用負担もある。大規模修繕については、毎年どれくらいの修繕費を積み立てるかなど、十分に検討する必要がある。

(事務局 大堀所長)

- ・現在は、大規模修繕の費用負担のための基金を積むという考えはない。継続的な黒字化とは、大規模修繕を含めて継続的な黒字化することで、平成25年度は黒字だった。

(市原委員)

- ・いずれは大規模修繕につながって行って、赤字になる可能性があるということか。

(事務局 大堀所長)

- ・そのとおり。

(市原委員)

- ・大規模修繕の必要な総金額はいくらか。

(事務局 大堀所長)

- ・総額で約10億円。

(市原委員)

- ・10億円に対して繰越金は予想以上の高いペースで増えている。支出を削減する、基金を増やすという対策を取らないのか。

(事務局 大堀所長)

- ・千葉市が見込んだ収支は、車券売上のトレンド、今回、下げ止まりがあってプラスに転じたが、今までの下げの幅を基本に、千葉競輪場での売り上げがどのくらい下がるだろうといった想定をしている。

(山本委員)

どのくらい下がると予測しているのか。

(事務局 大堀所長)

- ・約2%ずつ下がると考えている。

(山本委員)

- ・業界としての3か年計画としてはどのような予測か。

(白土委員長)

- ・売上総額の具体的な目標値は定めていない。全体的なトレンドとしては、伸びている部分とそうではない部分を分けて、共通で使える仕組みに投資する方針。
- ・車券発売のインターネット化、効率化を促進している。競輪選手数は、ピーク時の約4,500人から、現在は2,500人以下になった。
- ・開催経費もできるだけ落として施行者の収益につなげていく。
- ・他の公営競技にはできない時間帯、深夜のミッドナイトなどを取り入れて、車券売上額が1日1億円を超えるようになった。
- ・社会的な認知を得るためのビックチャンスはオリンピック。ケイリンという種目がオリンピックの中にあり、競輪を再度認識してもらう。

(藤本委員)

サイクルパーク化はいつごろ始めるのか。

(J P F)

- ・広島でサイクルパーク化する事を前提で採用された。まずは、広島でのノウハウを蓄積して、千葉競輪場に活かす。
- ・公園管理課との協議も必要。
- ・バンク修繕が終わる8月・9月以降に検討する。

(藤本委員)

今日は早めに来て、競輪場内を拝見した。ゴミ箱に敷いてあるスポーツ新聞の写真が見えたが、女性が見ると恥ずかしく感じる写真だった。

(山本委員)

全国で、新設や廃止が決定している競輪場はあるか。

(柳下委員)

大きく改修しようとする競輪場がある。新しく棟を建てる、バンクを全面リニューアルするなど。平塚、立川、川崎が実施する（予定）。有力な競輪場は立て直している。平塚はメインスタンド等、全部立て直すと聞いている。

小田原は、車券が売れていても、公園法で改修ができない。

昨年度、一宮が競輪場を廃止した。専用場外として活用されると思う。

(山本委員)

平塚・立川・川崎の改修の費用は、基本的には市が出しているのか。

(柳下委員)

競輪の特別会計で基金を積み立てている。30億円から40億円を積み立てていると聞いている。

(山本委員)

千葉市は、基金を積み立てているのか。

(事務局 大堀所長)

- ・改修のための基金はない。事業運営のための基金は少しあった。

(山本委員)

大規模修繕はいつやったのか。

(事務局 大堀所長)

- ・毎年修繕している。平成11年度にバンク改修をやった。
- ・平成11年から18年まで、一般会計に繰り出さず、選手宿舎の償還をしていた。

(事務局 斎藤主査)

- ・選手宿舎等の償還があったので、大規模修繕ができなかった。

(事務局 経済企画課村杉課長)

- ・平成7年に選手宿舎を立てている。収益が選手宿舎の経費に回っていた。

(山本委員)

車券売上額が絶頂期の時に一般会計に繰り出していた。川崎や平塚は、その時も基金を積み立てていたのか。

(柳下委員)

収益が大きい競輪場は、競輪が衰退してきた事で、積み立て始めた所が多い。車券売上額は平成３年度がピークだった。その頃は、どこも積み立てる意識がなかった。毎年１０億円、２０億円というお金が入ってくる状況。

平成１２年度くらいから、借上げ施行という、競輪場を借りて市営競輪を実施していた施行者が撤退を始めた。その頃から施設のため基金を作り始めた競輪場がある。

(山本委員)

千葉市は一般会計から予算を持ってこられない。直近に迫った大規模修繕はある。大切な税金を預かる立場としては、競輪場を廃止することに筋道が通っている。

(白土委員長)

事業継続という大前提から包括委員会をお手伝いしている。

(事務局 経済企画課村杉課長)

- ・１０億円を超える大規模修繕という経費に対して基金がゼロ。土地は国からの借地。年間１億円以上の借地料を払い続けなければならない。単年度赤字に一般会計、市民の税金を競輪事業につぎ込むという事はできない。市議会でも了承が得られない。今の段階では、判断が覆らない。

(ＪＰＦ)

- ・提案書の中では単年度収支の保証をしている。基本契約の中に記載されており、収益保証金の１億３，０００万円を千葉市に納付している。
- ・単年度売上赤字であれば、もちろん事業廃止も検討しなければならないが、現状では、運営にかかる委託費も含めてそれ以上の収益がある。繰越金も３億円残っている。ＪＰＦは、継続のためであれば投資する準備はある。
- ・お互いに未来を作っていくという思いで今までやってきた。
- ・継続に向けて協議の場を設けていただきたい。

(山本委員)

大規模修繕で１０億円かかる。潰すのも１０億円くらいかかる。平塚などは基金を積み立てていたが、千葉競輪場は積み立てていない。今まで儲かっていなかった訳ではないが。

(市原委員)

公会計の制度改革というのがどんどん進んでいる。千葉市も進んでいる。引き当てや減価償却などの問題も徐々に改善されてきた。

(事務局 経済企画課村杉課長)

- ・戦後、ずっと人口も減らない、税収も減らないという暗黙のイメージできた。ファシリティマネジメントとして、修繕、建て替え、複合化といったものをトータルにマネジメントするという考え方がここ数年で出てきた。逆に言うと、それをやらなければ自治体の施設は持たない。競輪は特別会計で考えなければならない。建物の維持管理のビジョンと経理の健全化を両立しなければならない。
- ・将来これくらい修繕にかかるという試算だけはしている。

(J P F)

- ・業界的に中長期的な展望を出せるのか。競輪業界をこの先どういう方向性に進めていくのか。
- ・開催日数が減っている。業界として収益率・回収率としては良くなっている。
- ・ボート業界は、1兆円を目指して頑張っている。方向性が違う。この先5年10年どのように進むのか。

(白土委員長)

大方針は、競輪の関係団体で構成される最高会議で検討している。

成長戦略部会が担当になる。

一番良いのは、売り上げが上がって各競輪場の収益が上がること。

本来刑法で禁止されている賭け事の競輪事業をやることは、社会に還元できるからやるという前提が必要。

(J P F)

- ・廃止の争点になっているのは施設の問題。業界に、1つのバンクを複数の施行者で使用するなどの方向性はあるのか。

(白土委員長)

- ・既にミッドナイトでその仕組みが始まりつつある。自分たちの場で昼間やらずに深夜開催できる競輪場を借りて夜の開催で収益を挙げている。

(J P F)

- ・開催権が大きいものだと思う。
- ・千葉競輪場をなくさない方向で、これからも言える範囲で助言を頂きたい。

(白土委員長)

議題1について了承。

(柳下委員)

全輪協は、千葉市の競輪事業実施に対する包括委託の審査委員として手伝ってきた。千葉市が競輪事業の廃止の方針を出したのであれば、委員の手伝いについては、少し様子を見させて頂きたい。(今後の展開で、改めて) 千葉市から正式な依頼があればお受けしたい。

(白土委員長)

J K Aも廃止の報道を受けて、この委員会でも10月から2年間という事で再任を引き受けたが、内部で検討したところ、事業継続が前提だったので残念ながらこの委員会における委員の職を辞任させて頂きたい。

千葉市から協力依頼や情報提供の依頼があれば、全面的に協力する。任期途中で辞任という事で、非常に無責任な対応となるが、ご容赦願いたい。

(事務局 大堀所長)

・千葉市としては、今のJ K Aと全輪協の考えを、会議前に聞いていた。上司にも報告して、各団体の目的と違う方向になると理解を得た。今回のモニタリングについては出席いただいたが、次のモニタリングは委員を補充して運営していく。

・3名の委員には引き続きお願いしたい。